

ホームシアターファイル

Home Theater File 2008年4月号掲載

デジタル・ミーム社 ラーリ・グリーンバーグ氏 インタビュー

山之内博子
Yuko Yamanochi

かつて日本の映画上映は活動弁士の語りつきが当然で、太正から昭和の初期、日本には実に七千数百人の弁士が存在した。この日本独特の活弁を付けた無声映画のリマスターDVDが販売されている。この企画と製作をし、無声映画のデジタル・アーカイブ作りに取り組みラーリ・グリーンバーグ氏に取材した。

1990年に親族を中心とする会社を設立し、会社を軌道に乗せたラーリ・グリーンバーグ氏は、この会社から「活動弁士」(よみかき)の「名作」などの無声映画についての本を出版。さらに「データベース」(日本無声映画大全)もDVD-ROMで刊行し内外の注目を博した。2000年に、映画のデジタル化事業の推進のためにマツダ映画社の松田豊さんとの出資で、デジタル・ミーム社を設立した。

来日と佐藤忠男氏との出会い
「私は大学を卒業した時に、それまで触れていない音楽と文化に触れようと思って日本に来ました。1年はどっかと、映画評論家の佐藤忠男先生の論文を翻訳することになり、先生とお知り合いになりました。先生が、この出会いが今の仕事に至るきっかけとなりました」

「佐藤先生は弁士の松田豊さんと親しく、お二人は1980年に、敬愛する俳優の阪東妻三郎に作られた『阪東』という映画の翻訳と字幕スーパー作りを私は依頼されて、そこから豊さんを集められた無声映画の活弁上映会も開催されているマツダ映画社ともお付き合いが始まり、活動弁士の澤登さんとの海外公演プロデュースをしたりするようにもなりました」

「1990年に親族を中心とする会社を設立し、会社を軌道に乗せたラーリ・グリーンバーグ氏は、この会社から「活動弁士」(よみかき)の「名作」などの無声映画についての本を出版。さらに「データベース」(日本無声映画大全)もDVD-ROMで刊行し内外の注目を博した。2000年に、映画のデジタル化事業の推進のためにマツダ映画社の松田豊さんとの出資で、デジタル・ミーム社を設立した。

「日本で作られた無声映画の多くは、残念ながら自然災害などで失われてしまいました。しかし、今、残っている無声映画のうち約千タイトルは、マツダフィルムライブラリーが所蔵しています。このデジタルリマスターは急務だったんですが、2000年頃は技術代が非常に高価で、一般向けDVD帯にはできませんでした。しかし技術が進みリマスター代もずっと安くなったので、昨年秋、無声映画名作のDVDシリーズ「ストーリーキング・サイレン」の発売を始めました」

往年の無声映画をDVD化
「このシリーズは映像をデジタル化しただけでなく、無声映画が上映されていた時と同様に、音楽や活弁もつけました。無声映画時代、映画は弁士がいて、伴奏音楽があるのが常識で、それが日本の優れた映画文化だったからです。溝口健二の『一歩の白鳥』など、この時代の映画は弁士が語ると思って作られていたんです。初期の溝口や小津監督はそういう常識の中で作品を作っていました。だから同じ状況を再現して、映画としてしっかりと見るものにしてあげました」

デジタル映画アーカイブへ
「我々の長期的な目標は、DVDを売るのではなくて、映像のデジタル・アーカイブを作ることです。その映像をケーブルTVで紹介し、ホームシアターで見たいという方、ゆくゆくは携帯へのダウンロードも考えています」

また、僕個人は映画を携帯で観ようとは思いませんが、携帯を使ってゲームをやるよりは、古いアニメを携帯で見て知っていると思う。例えばクラシックアニメの3分間の「のらくろ」

「日本で作られた無声映画の多くは、残念ながら自然災害などで失われてしまいました。しかし、今、残っている無声映画のうち約千タイトルは、マツダフィルムライブラリーが所蔵しています。このデジタルリマスターは急務だったんですが、2000年頃は技術代が非常に高価で、一般向けDVD帯にはできませんでした。しかし技術が進みリマスター代もずっと安くなったので、昨年秋、無声映画名作のDVDシリーズ「ストーリーキング・サイレン」の発売を始めました」

「我々の長期的な目標は、DVDを売るのではなくて、映像のデジタル・アーカイブを作ることです。その映像をケーブルTVで紹介し、ホームシアターで見たいという方、ゆくゆくは携帯へのダウンロードも考えています」

また、僕個人は映画を携帯で観ようとは思いませんが、携帯を使ってゲームをやるよりは、古いアニメを携帯で見て知っていると思う。例えばクラシックアニメの3分間の「のらくろ」

は、それに最適なコンテンツです。また、アーカイブの中のフットパイクが映画の中に、70年前の銀座を歩いている若者さんや昔の新聞社の様子を映し出しているなど、当時の貴重な映像にしたい。デジタルカメラなどで使用されている高画質のフットパイクのような技術を活かして、検査で映像をすぐには提供できない可能性もあります」

「佐藤先生や松田さんや澤登さんたちとあがって来たんですが、佐藤先生や松田さんや澤登さんたちのご協力、日本の文化遺産である無声映画を次世代に伝えるという意義のある事業ができるのは本当にラッキーでした。多くの方に無声映画のおもしろさを発見していただきたいです」



記事の映画の内容、感想についてのお問い合わせはデジタル・ミーム社まで、
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三丁目27-11 池袋ヒルズビル2階
電話: 03-5467-4729 ファクス: 03-5467-4722
HP: http://www.digital-mime.com/about_us/contact_us/index.html
e-mail: info@digital-mime.com

映画館のある家! づくりに役立つ、事例・ノウハウ・コンポーネント満載!

ホームシアターファイル

総力特集 あなたのホームシアターづくりにこれで安心!

ホームシアター デザイン

映画館のある家はこうしてつくる!

2008年4月号 1,000円 (税別) 50ページ以上

スピーカーから響く2008年のソノエと目録スピーカー紹介
最新ブルーレイ事情徹底攻略! Blu-ray/DVDプレーヤーの選び方
壁面収納でもっとキレイになる! 照明は「暗」から「明る」へ
薄型テレビ、サウンド強化計画 ショールームでフロントサラウンド